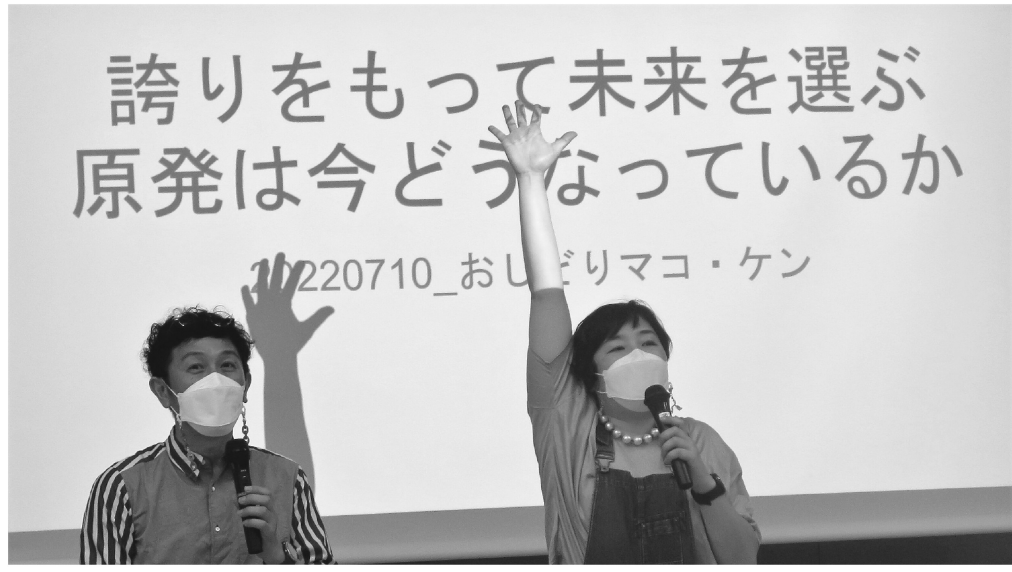


平和 特集号

たいとう

東京土建一般労働組合
台東支部
〒110-0012 台東区竜泉1-15-2
Tel:03-3876-1966 Fax:03-3875-5965
Mail:taitou@tokyo-doken.or.jp
HP:http://doken-taito.jp
編集 杉本 郁代

戦争と原発について 今こそ向き合うべき時



原発について話すおしどりのマコさん(右)ケンさん(左)

7月10日に、東京土建本部けんせつプラザにて、共同取材研修が行われ、参加しました。
ジャーナリスト志葉玲(しばれい)さんによるウクライナ現地取材の報告講演と、夫婦(めおと)の福島原発事故の報告を聞きまし

ウクライナで何が起こっているか

志葉さんは写真・動画でのウクライナ取材

報告で、実状を判りやすく伝えてくれました。私たちがテレビなどでみる報道以上の戦禍であり、想像以上のものでした。なぜこのよう

原爆事故に見えてきたもの

昼休憩を挟んで、午後は芸人コンビおしどりの講演でした。誇りをもって未来を選ぶ、原発は今どうなっているかという講演題目でした。おしどりさんは本来、お笑い芸人さんです。それが東日本大震災により生活が一変、当時芸人やタレントが

東京から逃げ出していったそうです。そこで、おしどりさんは、今福島でなにが起きているのか現状を調べて取材をし、それをイベントや舞台でお客さんに報告しようと考えたそうです。しかし、当時は舞台で震災の話はしないように言われ大変だったようです。それでも取材活動を続けていくと2014年にドイツに招かれ、中高・大学で講演を行うようになったと言います。ドイツの学生が日本の

平和のペナントをきりぬぎなごうだん

ロシアによるウクライナ侵略から半年が経過しました。ロシアはこの侵略を正当化し、ウクライナ側も徹底抗戦を貫いています。この間テレビや新聞、インターネットなどのニュースで、一連の報道を目にする機会が数多くありました。ロシアのプーチン大統領が核兵器使用を示唆する暴論まで飛び出しています。日本では77年前に広島、長崎に原子爆弾が投下されていきます。世界で唯一の被爆国でもあるこの日本で、今



暑い中を沿道の区民へアピール

私たちが身近でできる戦争反対の意思表示として、平和行進に参加しました。今年で65回目となる原水爆禁止国民平和大行進は、5月に東京から広島へ向かうコースと和歌山から広島を目指すコースのスタートを皮切りに始まりました。7月28日の夏真っ盛りの暑さの中、荒川区から繋いできた平和のペナントを入谷公園で引き継ぎました。そして台東区役所までの道のりを、戦争反対、核兵器反対のプラカードを掲げてパレードしました。コロナの



ウクライナで現地取材をした志葉玲さん

空には色々な表情がある。子供のころ十五夜お月さんのウサギの姿を、目を凝らして探した。雲の形の変化にも季節を感じるし、夕焼け色もいつもと違わずと見入ってしまった。旅先で初めて天の川を見た時には、宇宙空間に押しつぶされるような脅威を覚えた。なかでも忘れがたいのが、出産後に産院の手洗い場の小窓から見た朝焼けの空だ。淡色でうつすらと明るく、静かな空気のなかで何ともいえない幸福感に包まれた。これから子育てという現実が待っていることを忘れるひと時で、あの感覚は何だったのか今でも不思議な体験だったと思える。空を見上げることがストレス解消にもなるというし、世界中が繋がっていると考えると楽しい。

同じ空でも昭和20年の東京大空襲の際の夜空は、真っ赤だったと聞く。なぜ赤く染まっていたのか判らず、遠い土地の子供たちの目には、それがきれいな景色に映ったという。戦争とは本当に残酷なものだ。



木洩れ日

～2022 平和特集～

平和について今、思っていること

『映画から考える平和』

戦争に関する映画で一度観たらもう観なくていい、というより観たくないと思った作品が二つある。あまりにもつらいと感じる場面があったからだ。

ひとつは「はだしのゲン」のアニメ編で、主人公の母親が家の下敷きになった父親と妹を助けられず家が燃え出して、まだ息のあ



通信員 杉本郁代

る三人を残して逃げる場面だ。もうひとつはスタジオジブリの「火垂るの墓」こちらもアニメ作品で、孤児の兄妹たちは食べるものがない。妹がドロップだと言いつつ小石を舂めながら死んでいく描写と、兄も駅舎で餓死するという話だ。両方ともいつまでも目に焼き付いて、再度観る機会もあるがやはり胸が痛む。

今の子供や若者は、ゲームや映画の影響で戦争をカッコいいと思う人もいるかもしれない。しかし現実で殺し合えるのか。目の前にいるのはあなたと同じく、子も親もいる人なのに殺せるのか。私が述べるのは矛盾しているかも知れないが、色々な物語からぜひ学んで欲しい。そして想像力をはたらかせてみてもらいたい。戦争を知らないからと敬遠しがちな若者に言いたい。あなたのその血と肉は、間違いなく戦争で生き残った人たちの命から生まれているのだ。決して他人事ではなく、歴史から学ばないものから未来はないというのを。あなたと同じ

『核兵器禁止条約 署名活動に思う』

8月6日に原水爆禁止台東協議会が行った核兵器禁止条約の署名活動に参加しました。これは、核兵器禁止条約に日本が参加しないのはおかしいのではないかと考える人たちが政府に条約参加を促す目的で行っている署名活動です。

日本政府は米国と安保条約を結び核の傘の下にある状態を考慮してか参加していません。ですが、同様な状態にあると思われるNATO加盟国などはオプザーパー参加をして積極的



署名・宣伝行動の様子です

てくれます。(特に女性の)関心度が桁違いです。考えるに子供の時の原爆教育のおかげ、核兵器が使われた時の悲惨さを聞かされたことのない人のほうが少ないからでしょう。しかし今、原爆の悲惨さを語れる方が少なくなっています。写真は貴重な証拠ですが新聞に出てくるようなものは米国軍隊由来が多く本当に悲惨だったであろう原爆投下直後の写真はあまりありません。このような中でこれからも原爆の悲惨さを語り続けるのか非常に不安に思います。

ロシアがウクライナに対して核の脅しを使ったといわれていますが言語道断です。もう一度核兵器を使ったら人類に朝は来ないように思います。日本政府が核兵器禁止条約を批准して核のない世界がくることを夢見ながら8月6日の暑い、暑い、暑い一日は過ぎてゆきました。



通信員 寺山邦裕

『ニュースから戦争が消える日』

今、私が住んでいる日本は、戦争も紛争もない、平和な国です。それが77年間も続いているのです。イラク戦争の後方支援ということはありましたが、前線に赴いての参戦はありません。そのことについて色々と意見はあると思いますが、今の日本国内では平和な日々が続いています。

当たり前のように毎日が平和に過ぎていく中で、世界に目を向ければ戦争・紛争・内戦と様々なところで人間同士が戦い、殺伐としたニュースがわたしたちの前に流れています。まるで他人事のように、しかしそれは対岸の火事としてしか受け止めることができません。なぜなら、日本にミサイルが飛んできて国内に着弾したわけでもなく、爆撃されたわけでも

もないのだから。しかしウクライナでは信じられないような光景が広がり、ニュースとして報道されています。日本人としてどう受け止めればいいのかかわからなくなりました。コロナ感染症さえなければ、本当に平和な日本と言えます。しかしそれはウイリスとの戦いであつて、世界では人間同士が殺戮を繰り返しています。昔こんなことを言っ

ていた人がいます。「戦争を終わらせるのは簡単なことだよ。戦争を始めよう、やるぞ」と言った人が最前線に行く法律を作れば戦争はすぐに終わる」と。また「有史以来、良かつた戦争など無ければ、悪かつた平和も無かつた、と言っていた人もいます。テレビや新聞、インターネットから、戦争や紛争のニュースが流れない日々がいつか来ますように、切なる願いです。

『平和への願い』

今年も終戦の日を迎えました。終戦記念日と報道するメディアもありますが、私には少し違和感があります。でも戦争の時代を生き抜いた人たちからみれば、ほっと安堵したことでしょう。なぜこのような争いが繰り返されるのか。宗教や思想の違い、人種問題など諍いの火種はたくさん

あります。しかしそれは人間の欲望のすり替えに過ぎません。人間はいつでもよりよい環境、よりよい生活、より大きな満足感と、今よりも良くなることを願うものです。絶望・悲しみ、空虚な気持ちと愚かな行為の代償です。平和な社会に於いてこそ、幸せで穏やかな生活が営めるのでしよう。争いのない世界を目指したいです。



通信員 杉本良信



通信員 福田俊昭

私の大切なもの ～分会リレートーク～



思い出の日比谷線

小学生のころでしょうか。電車が好きだった私は、当時部分開通したばかりの日比谷線に乗り、兄と一緒に出掛けました。夕方くらいの時間帯だったと思います。開通したのは仲御徒町と南千住の間だけで、お客は少なくガラガラ状態。こんなに乗客が少なくて「どうなるんだろう」

と子供ながらに思ったものです。仲御徒町では折り返し運転です。編成は短く三両くらいでした。発車してから4つ目が南千住、終点です。あつという間の時間でした。帰りは常磐線で上野へ戻ろうと、国鉄のホームへ向かいました。周りは薄暗く寂しい感じがしました。ホームで待っているとき、と取手行きの下り電車が先に入ってきました。私はこの取手行きの電車に無性に乗りたくなり「いっちゃおうか」と兄と二人で乗り込みました。取手まではかなり時間がかかったは

上野浅草橋分会
T・F

分会リレートークの2回目は浅草中央分会の石橋さんです。コロナで最近の実施できていませんが、組合の旅行の思い出を語っていただきました。



浅草中央分会石橋さん

コロナ禍以前の話です。4年前、2018年の5月20日曜日に、PAL東部ブロックレクで東京ドイツ村へ行きました。朝8時30分に台東支部事務所付近にあるトヨタ前を出発したバスは高速に乗り、途中東京アクアラインのサーブエリア・海ほたるに寄りまして。

その後他の支部のバスと合流し、アクアラ

インを渡り、千葉県ドイツ村へ向かいました。ドイツ村へ着いてびっくりしたのは、広大な敷地ときれいな芝生でした。釣り場やボートに乗れる池もあり、幼児や小学生を連れた家族連れがとても喜びそうな場所でした。これほど緑に囲まれ自然

と向き合えるようなところはそうそうありません。お昼のバーベキューを楽しみ、色々な種類のビールを飲みまくりました。パーベキューが終了後、ドイツ村から三井アウトレットパークに立ち寄り、帰途につきました。天気にも恵まれ、とてもよい一日を過ごせました。最近ではコロナで組合や分会の仲間との交流ができませんが、亡くなった元副委員長の小澤さんたちの楽しかった思い出でもあります。

【ライトシルバーからのお知らせ】

11月11日(金)に、東京近郊にて日帰り旅行を予定しています

コロナ感染者数の高止まり傾向が続く予断は許しませんが、現在計画を練っています。詳細は来月以降に改めてお知らせ致します。

単独山行記

〔栃木・日光男体山 2486m〕

7月2日、朝5時に車で自宅を出発、東北自動車道を北上し日本百名山のひとつ、日光男体山へ向かいました。7時半過ぎに登山口駐車場に到着、二荒山神社受付で入山料をおさめてお札(ふだ)をもらい単独山行を開始しました。首都圏ではおりしも35℃超の日々が続いて



日光男体山の急登ザレ場を見上げる

おり、標高が高い日光道に戻ります。6合目あたりから急登が続く、8合目手前で脚の疲労はピークに達しました。小休止で水分補給をしながら、20代とおぼしき二人組の男性のうちの一人が「これ以上足が上がらねえ」とつぶやきながら、それでも一生懸命に歩

進めていきました。再開後気合を入れ直して、溶岩や火山岩が続く道に登り、11時過ぎにようやく登頂しました。山頂には修験山らしく、鳥居や祠、御神剣を目にする事ができました。中禅寺湖を見下ろす絶景を味わいながら、昼食休憩。11時半に下山を始め、慎重に歩を進めました。そろそろ麓近くなるのかという3合目過ぎから、雷が鳴りはじめました。さらには雨も降り始めたため、疲労が溜まった脚にムチを打ちピッチを上げて、14時過ぎに下りきりました。

K・M



「雨あがる」 前進座の秋公演

山本周五郎原作の短編小説を舞台化しました。1999年には映画化もされて大ヒットしています。

東京土建統一観劇日

日にち：9月25日(日)14時30分

ところ：半蔵門 国立劇場

料金：A席6000円、B席5,000円、C席3,500円

※チケットの半券持参でA・B席は2,000円、C席は1,000円補助します

君は風船おじさんを覚えているか

30年前のお話です



風船おじさんこと、ピアノ調律師鈴木嘉和氏。1992年にあった「ファンタジー号」事件を皆さんは覚えてるだろうか。巨大風船でアメリカへの渡航を試みたものの、そのまま太平洋上で行方不明となった。

事件時鈴木氏は52才。調律師であった氏は1984年44才のときに音楽教材販売会社「ミュージックアンサンブル」

を起業、86年には「あんさんぶる」を開店し、その後麻雀荘やコーヒーサロン、パブレストランなど多角経営に乗り出す。私が鈴木氏と関わりをもつようになったのは、知人の紹介で88年5月にパンフレットやメニューの注文を受けたのが始まりだった。当時私は印刷屋を営んでおり、その年230万ほどの受注があった。翌年12月にはコースター1万枚の注文を受けたが、鈴木氏の会社の経営状態が悪く、納品ができずじまいに終わった。この1万枚ものコー



コースターと鈴木氏の名刺

スターは知人が浅草で経営している喫茶店で使ってもらったが、未だに少しだが手元に残っている。経営がおかしくなったのは表の話であり、鈴木氏は店の権利を賭けて麻雀をやりに取りついたり取られたりしていたという。手に入れた麻雀店の名刺や押上のスナックのママの名刺の印刷を受けたこともあった。そんな店を10店舗以上知っている。ある日、銀座のあんさんぶるで、その当時人気のあった歌手グラシエラ・スサーナを招いてパーティーが開かれた。そのパーティー券を付き合いで10枚ほど購入したため、妹夫婦を連れともあった。しかし、次第にこのよう

知っている方も多いが、数年前よりサウナがブームだ。流行りもの好きな私も、すっかりブームの波に乗ってかれこれ4年。自称ではあるが立派なサウナ（サウナの愛好家）になったと思う。



ブルームの発端はタナカカツキ氏が手掛ける漫画「サ道」。発音は一緒だが、茶道ではなくサ道。作品の中で描かれた「とこのう」という表現が、若者に響いた。

「とこのう」とは一般的なサウナの入り方でもある、①サウナで汗をかく②水風呂で体を冷やす③イスなどで休憩をする。この①②③を3セットほど繰り返したのちに訪れる多幸感に包まれるような感覚をさす。



行きつけのサウナです

医学的には温冷差の刺激により脳内でβ-エンドルフィンなどの分泌が促され、ストレス緩和や精神安定につながっているとの事。「とこのう」は心身ともにリフレッシュでき、明日への活力

を生み出す。これがサウナブルームの根幹だと思う。逆を返せば、ストレス社会だからこそ流行しているのかも知れない。

台東区は銭湯文化が根付いていて、魅力的な施設も多い。今後、そんなサウナの魅力を独り言でつぶやいていけたらと思う。

A・K

仲間を増やす 秋の拡大月間

建設業に携わる仲間を増やす取り組みがスタートしました。10月末までの行動となり、目標は52人以上となります。

8月28日に支部会館で「秋の活動者会議」を開催しました。東京土建本部の専従常任書記の御崎さんの講演では、「公契約条例のイ・ロ・ハ」について述べていただきました。6

レビの報道で知り、13万円くらいの損失で済んでよかったです。松が谷分会 A・I

月の台東区議会で、一般質問に答える形で服部区長が、公契約条例の制定に向けて取り組みを表明していただきます。今こそ労働者側代表である労働組合の出番であること、とりわけ東京土建の地域に於いての役割は重



目標達成に向けてガンバります

に取り組んでいく必要性を改めて認識しました。各分会の今秋の拡大目標は左記のとおりとなります。組合員宅や事業所を訪問する際には、困っている組合員の声を積極的に聞き取ってください。国保料減免、組合総合共済の傷病見舞金、石綿関連の講習会、建設キャリアアップ登録など対話のネタは数多くあります。感染対策に充分留意した上で行動し、目標達成を目指します。

- 第1次行動日 8月28日
- 第2次行動日 9月14日・15日
- 第3次行動日 9月21日・22日
- 第4次行動日 9月28日・29日
- 第5次行動日 10月12日・13日
- 第6次行動日 10月16日・「住宅デー」
- 第7次行動日 10月19日・20日
- 第8次行動日 10月26日・27日

【秋の住宅デーお知らせ】

10月16日(日) 10:00~14:00

支部会館隣り「朝日弁財天公園」にて住宅デーを開催します

《 工作教室や包丁研ぎを予定 》

※コロナ感染防止対策に留意しますが、延期・中止になることもあります

分会名	目標	成果	達成率
清川	8	0	0%
浅草中央	3	0	0%
下谷	2	0	0%
谷中	2	0	0%
松が谷	5	0	0%
上野浅草橋	4	0	0%
直属・事業所	28	0	0%
合計	52	0	0%
青年部	4	0	0%
ライトシルバー	10	0	0%
女性の会	4	0	0%